

## 10. 自然現象

### 10-1. 時間 (季節・1日の区分)

#### 10-1-1. 季節

春と秋、春は雪が消える前 (出稼ぎで働きに出る前) に、秋は10月頃、寒くならないうちに畑のものをとった後に、カムィノミ (kamuy nomi) をした。これは酋長さんの家でないとできない。神にミズキのイナウを作ってあげた。人々が大勢集まり、トウキビで酒を造った。ザルで漉して、しぼった (濁り酒)、アワのシトギを作り、丸いヘラのような (穴あきの) 杓子でそれをすくった。それをルサ rusa (カヤで編んだスタレ) の上に並べて乾かす。

春と秋に魚が取れるようにカムィ ノミ kamuy nomiをした。

春3月頃は、昼間潮が引き、夜満ちる。夏は昼間潮が引き、海草干しに良い。夜は潮が満ちて干せない。秋になると夜の潮がよく引く。冬は夜潮が引き、昼に満ちる。旧暦で1日、15日は潮が引く。潮が引くはシラリサツテク sirarisattekという。潮がこむと風も強くなる。

ここから見える虻田の高い山には春遅くまで雪がある。この山の雪が融けるとニシンが来る。その山をヘロキ ウパシ heroki upasと呼んだ。

カッコウ (カクコ kakko) が来たなら何を蒔いてもよい。春にガス (ウラル urar) が来ると、いろいろの渡り鳥が集まって来ると婆あさん達が言っていた。ガスがかかかってからでないとカッコウは鳴かない。

[有珠、堀崎さく氏]

#### 10-1-3. 1日の時間区分

シリクンネ sirkunne 「暗くなる」

ニサツ nisat 「明るくなること」

「ピリカ メノコ と ニサツタノ モコロ ニサツタ パシクル チシ コラチ」 pirkano menoko と nisattano mokor nisatta paskur cis koraci とかいう歌があった。「きれいな女と早く寝る、夜明けカラスの鳴くように」という意味。

[有珠、堀崎さく氏]

### 10-2. 気象・天候

シルウェン sirwen 「天気が悪い」

シリピリカ sirpirka 「天気が良い」

タント シルウェン tanto sirwen 「今日は天気が悪い」

[有珠、堀崎さく氏]

#### 10-2-1. 寒さ

寒い：シン ナム sin nam。(水が冷たいのも、ナム namである。冷たい水：ナム ワッカ nam wakka)。

とてもしばれる (とても寒い)：ネブ シン ナム アムマ nep sin nam amma。

寒い：メーアン méan

[有珠、堀崎さく氏]

#### 10-2-2. 暑さ

暖かい：シリ ポプケ sir popke。

暑い：シリ セーセク sir sések。「暑いなあ」：シリ セーセク ワ sir sések wa (お湯が熱いのもセーセク sésekである。この湯は熱い：タン ウーセイ セーセク tan úsey sések)。

[有珠、堀崎さく氏]

#### 10-2-4. 風

風がふく：レーラ アシ réra as。

[有珠、堀崎さく氏]

#### 10-2-6. 霧・雨・雪

ウェニ weni 「雨」

タント ウェニ アシ tanto weni as 「今日雨降った」

ウパシ upas 「雪」

[有珠、堀崎さく氏]

#### 10-3. 天体

チュプカムイ cupkamuyはお月さんのこと。

[有珠、堀崎さく氏]

#### 10-4. 地理・地形

##### 10-4-1 コタンと近隣の状況

私の生まれた豊浦はベンベとも言った。コタンは、今の豊浦駅の前にあって、ベンベ川がそばを流れていたが、駅ができたとき、立ち退きさせられた。

伊達とナガワの間のオサル川は今はサカナがのぼらないが昔はのぼったのではないか。昔の人もサカナとった話をきかない。シカとり、クマとりの話もきかない。

[有珠、陸辺ミツ氏]

母の子供の頃はアキアジの川で靴を作った。

[有珠、芦原サイ氏]

虻田には、川が無い、飲み水の小川だけ。付近にも川はない。サケ、マスの入る川は知らな

い。水は井戸を掘っていた。わき水は善光寺のところに一つあるだけ。だから秋味もとれなかった。

自分は虻田で明治43年に生まれた。覚えた頃は汽車もなく、今の役場辺りに土人学校とシャモの学校があった。役場と第2学校（土人学校、21名）のすぐ下に学校への坂道があった。当時、アイヌの人がたくさんいた。親戚が皆かたまっていた。ワッカエカシ、イヌベカエカシ（虻田の人）、口家九蔵（酋長で、わしの孫婆あさんの連れあい）などがいた。当時のアイヌは漁師をしたり、畑を作ったり、出稼ぎ（ラッコ船など）をしたりしていた。わしの子供の頃はクマの仔を預かっている人もいた（口家九蔵）。

昔からこのアイヌは川漁をしない。

自分が育った時、役場のすぐ下の口家九蔵の家は大きくて、人を集めて何かにとやる時に使った。

[有珠、堀崎さく氏]

#### 10-4-2 地形名称

山をヌプリ nupuriという。

砂はオタ otaという。

[有珠、堀崎さく氏]

#### 10-4-3 方向名称

##### 方角

方角をどう言ったかは、東風がヤマセと言うのしか知らない。

[有珠、芦原サイ氏]

7月に東から吹く「やませ」はメナシ menasという。風はレーラ réraという。お彼岸過ぎになって逆（南西）から吹く「かわせ」はイタサ レラ itasa reraという。イタサは引き返すという意味。沖に出るとかわせに気をつけろという。かわせと波が一緒に来るものを「ひかた」とか「たちかわせ」という。

[有珠、堀崎さく氏]

#### 10-4-4. 地理・地名

昔、トコタン tokotanというアイヌの村が今の虻田の築港のあたりにあったが、有珠山の噴火の泥流で全滅したそう。

豊浦の奥にコンブという山があるが、それは、津波でコンブが上がって山に引っかかったからだという。

焼山（有珠山）のような山をヌプリ nupuriという。昔の人は大切に拝んでいて、登山はしなかった。ヌプル カムイ nupur kamuyというのは「あらたかな神」ということだ。

[有珠、堀崎さく氏]

有珠善光寺の近くの山を戦争中に切り崩したら、たくさんの骨が出てきた。昔の裁判所の跡だと母が言っていた。裁判所のことをクサイバン kusaypanと言っていた。

[有珠、芦原サイ氏]

有珠善光寺の向いに島がある。それを父たちはブクサ ウシ モシリ pukusa us mosirと言っていた(地図5、6)。ブクサ pukusaとはキトピロ(ギョウジャンニク)のこと。その向い側にポロ ノツ poro notがとび出ている。これを目当てに舟が入って来る。

[有珠、芦原サイ氏]

有珠山は、子供の頃、「焼山」と言った。

[有珠、陸辺ミツ氏、芦原サイ氏]

虻田の流域をペトルル petorurという。カムイ ワクカ kamuy wakkaというのは、鉾山から流れて来る赤い川(フーレ ペツ hūre petと呼ばれる)の水のことで、「あかくらさん」というお宮のそばの「やちけ」(湿地)のあるところが、きれいに澄んでいるのでそこから水を汲んできた。渋みのある水だった。一升びんで水を汲んできた。

虻田から洞爺湖にのぼって行くと、途中、左手の中学校の上に、高い山があって、それをノットコ nottokoという。

ニナルカ ninarkaというところもある。

ポロノット poronottoというすぐその山を大事にして拝んでいた。有珠の港(ポン マ pon ma)に出ている山のこと。昔のアイヌの家はポンマの回りにあった。ポンマの向こうの入り江はノヤノマというが、そこにもアイヌの家があった。

アルトリの方までは磯になっているが、それから先はあまり磯がなかった。

ピスン・コタン pisun kotan は日高で聞いた言葉だ。荻伏と浦河の間がイカンタイ(地名)で、イカンタイから上の方、奥の方は知らない。浜から近いコタンをピスン・コタンと言った。(地図4、5、6参照)

[有珠、堀崎さく氏]